

ワーキング名：在宅支援ワーキング部会

現 状	医療、介護職員の人材不足、高齢化。訪看等サービスの地域偏在。医師の看取り連携の利用が少ない。医療依存度が高い在宅患者の把握ができておらず、災害時の体制について協議がされていない。在宅医療、介護の多職種の実施状況が分からない。
課 題	医療・介護・障がい等の業務の効率化、連携を推進することで、少ない人材でも対応できるようにし、各職種の負担軽減につなげることが重要。在宅医療や介護等に関わる多職種が、互いの役割や事業実施状況を把握し、連携体制を整える必要がある。
全体の達成目標	・在宅医療・介護等の提供体制の構築推進(連携強化、業務効率化、災害対応等)や、在宅医療・介護についての知識や技術の向上を図る。 ・各団体・事業所の役割や事業内容を把握できるよう周知を図る。(各団体・事業所の事業内容等の一覧を高岡多職種ネット上に掲載する等)。
令和6年度の達成目標	・多職種の研修会を開催し、在宅医療や介護等の相互理解や資質を向上させる。 ・アンケート調査を実施し、各団体・事業所の実施状況やニーズを把握する。

令和6年度の取組み予定				令和7年度以降の予定
4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
6月 第1回ワーキング ・R6事業計画 ・研修会のテーマ、役割分担について ・多職種が抱える課題、研修の希望の把握 ・事業内容等一覧表に掲載する項目の検討(訪問診療や訪問のサービス提供内容や範囲等) ・事業の成果指標の検討	7～8月 アンケートの実施 (事業実施状況の把握、各職種が抱える課題、希望する研修のテーマ等) 8月 第2回ワーキング ・アンケートの結果報告 ・課題の優先順位について ・研修会の役割分担(事例提供者、司会等) 9月 研修会①事例検討会 テーマ:末期癌患者	11月 研修会② テーマ:アンケートからテーマ及び講師を選定 12月 第3回ワーキング ・課題解決に向けての協議	2月 研修会③ 事例検討会 テーマ:高岡多職種ネットの活用事例	・課題解決に向けた継続協議 アンケートを基に、優先順位を決定し、課題解決に向けて協議を進める。 ・研修会の開催(3回) (疾患別事例検討会、講演会等)

ワーキング名： 情報共有ワーキング部会

現 状	①医療・介護双方のニーズを有する高齢者が増加している。②在宅で医療的ケアを受けながら日常生活を営む小児や若年層の患者が増加している。③医療・介護、障がい福祉分野の支援者が不足している。
課 題	①関係職種への「高岡多職種ネット」の周知不足。①② 市の具体的な連携ルールや情報共有の手順等が示されていないため、迅速かつ統一した対応が実施できていない。③システム利用者がシステム利用や活用の理解等が不十分なために、効果的な活用ができていない。
全体の達成目標	①②高岡多職種ネットの普及を図り、システム利用者間で情報共有・連携を行うことで、より対象者の状態に応じた医療・介護等が提供できる。医療・介護等の情報共有を推進し、切れ目のない支援を行うための「顔が見える関係性」構築を図る。③ICTによる業務効率化により、医療・介護等従事者の負担軽減を図る。
令和6年度の達成目標	①②関係職種に対し「高岡多職種ネット」を周知し、登録施設数・利用者数の増加を図る。4つの場面(厚労省:在宅医療・介護連携推進事業の手引き)及び災害時のうち、優先順位が高い場面における連携ルールや情報共有の手順等に係る手引きを策定する。③研修会等を開催し、利用者のシステム活用の理解促進を図る。

令和6年度の取組み予定				令和7年度以降の予定
4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
6月 第1回ワーキング ・高岡多職種ネットの普及・啓発方法の協議 ・情報共有についての各分野での課題把握・抽出。優先順位の確定。 ・事業の成果指標の検討		10月 第2回ワーキング ・課題解決に向けての協議 ・手引き等の内容協議、策定。 12月 第3回ワーキング ・課題解決に向けての協議 ・手引き等の内容協議、策定。	2月 研修会③ 事例検討会 テーマ:高岡多職種ネットの活用事例	・高岡多職種ネットの普及・啓発を引き続き継続し、登録施設数・利用者数の増加を図る。 ・優先順位をもとに、連携ルールや情報共有の手順等に係る手引きについて、引き続き協議し、策定する。

ワーキング名：普及・啓発ワーキング部会

現 状	訪問診療や往診、訪問歯科診療、訪問看護等の在宅医療の内容や実施している医療機関等について、市民に周知がされていない。人生いきいきノートを活用した人生会議(ACP)や認知症について家族や地域の理解不足がある。
課 題	在宅医療・介護、ACPについての情報提供、認知症についての正しい知識の普及啓発を積極的に行い、市民が自身や家族の最期をイメージするとともに、在宅医療・介護を自分事としてとらえ、在宅医療やケアを希望する人を増やす必要がある。
全体の達成目標	在宅医療・介護、ACP等についての情報提供を行い、市民一人ひとりが、在宅医療・介護を受ける選択肢を持ち、人生の最期まで自身や家族が望む医療やケアを受ける人を増やす。
令和6年度の達成目標	市民に在宅医療・介護の内容や手続きの流れ等についての正しい知識の普及啓発を行い、在宅医療・介護の利用に対する不安軽減を図る。ACPの普及啓発を行い、活用の理解度を高める。

令和6年度の取組み予定				令和7年度以降の予定
4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
6月 第1回ワーキング ・在宅医療運営委員会(令和5年度まで)で挙げた課題の共有 ・人生いきいきノートの活用状況の把握 ・地域住民への普及・啓発方法についての検討(上映会(案)・SNSなどを活用した周知等) ・事業の成果指標の検討	9月 第2回ワーキング ・上映会(案)の役割、市民への周知方法検討 ・令和7年度に向けた出前講座の内容検討	10月 在宅医療の未来を考える上映会(案)の開催	1月 人生いきいきノート配布に関するアンケート(地域包括支援センター等へ) 2月以降 アンケートの結果報告(書面にて)	・市民への普及啓発に関する課題解決のため、引き続き協議を進めていく。